

# 金利と利息の関係を 理解する

あんびる えつこ Ambiru Etsuko 文部科学省消費者教育アドバイザー

「子供のお金教育を考える会」代表(<http://www.kids-money.jp/>)。著書に「アクティブ・ラーニングで楽しく！消費者教育ワークショップ実践集」(大修館書店、2018年)ほか。



## お金理解度チェック

- 次の①～③のうち、内容が合っていると思う□に✓をしましょう。※利息はすべて税引き前
- ①金利0.3%の3カ月ものの定期預金に100万円預けた場合、3カ月後にもらえる利息は3,000円だ。
  - ②金利0.3%で100万円を30年間、1年複利で運用した場合、30年後にもらえる利息は9万円だ。
  - ③AさんとBさんは、100万円を3年間運用した。Aさんは毎年5%のリターンを得た。一方のBさんは1年目20%、2年目10%で運用できたが、3年目は-15%だった。3年後に手にした金額が多いのはAさんだ。

内容が合っているもの(☑)は……③のみ。

①もらえる利息は750円 ②1年複利なので30年後の利息は9万4027円

※日数、端数の処理等の計算は金融機関によって異なるため、利息の数値が異なる場合があります。

私たちがお金を運用する商品を考える際、まず目が行くのが金利です。しかし広告などに表示された数字だけで、一概に「高い」「低い」を判断することはできません。今回は金利とは何かをおさらいし、利息との関係を考えていきます。

※本文中の利息はすべて税引き前

### ポイント1 金利は、基本的に年利表示

「金利」は、利息を算出する時の基本となるもので、通常は元本に対する1年間の利息の割合を示し、「%」で表します。

注意したいのは、この金利が多くの場合、先に述べたとおり「1年間」の利息の割合、つまり年利であるということです。ほかにも月利、日歩という表示もありますが、現在ではほとんど見かけません。ですから「金利0.3%の3カ月もの」の定期預金に100万円預けた場合、3カ月後にもらえる利息は3,000円ではなく、100万円×0.3%×(3カ月/12カ月)=750円ということになります。

### ポイント2 「単利」と「複利」では もらえる利息が違う

利息の計算方法には「単利」と「複利」があります。「単利」は預入期間中の元本についてのみ利息がつくということ。「複利」は、預入期間の途中で、それまでについた利息を元本に加え、その合算額を新たな元金として利息を計算していく方法です(図1)。1年複利よりも半年複利のように利息を元本に加える期間が短いほど、また0.3%より3%のように運用リターンが高いほど、そして運用期間が長いほど「複利効果」によって、より多くの利息を得ることができます。

つまり単利と複利では同じ金利でも受け取る利息は違い、単純に比較することができないというわけです。そこで使われるのが「利回り」です。「利回り」は、元本に対してどれくらい増えたかを示す割合のことで、通常1年当たりの平均利回り(年利回り)を指します。

例えば、元本100万円を年利0.3%で30年間預けた場合、1年複利なら年利回りは(9万

4027円÷100万円÷30年)でおよそ0.314%になります。単利の場合は、(9万円÷100万円÷30年)ですから、0.3%ということになります。

**ポイント 3** 投資の場合の「利回り」と「複利効果」に注意

投資の場合も、投資した金額に対する収益割合を1年当たりの平均に直した数字を「利回り」で表します。ただ投資の場合、税金のほかに、株式なら売買手数料、投資信託では販売手数料や信託報酬、信託財産留保額などがかかってきます。そこで、得られる収益から単純に利回り計算する「表面利回り」ではなく、費用を加味して利回り計算する「実質利回り」を考える必要が出てきます(図2)。広告に記された「表面利回り」に引かれて投資したら、手数料などが思いのほかかかると、収益が得られなかったということもありますから、注意が必要です。

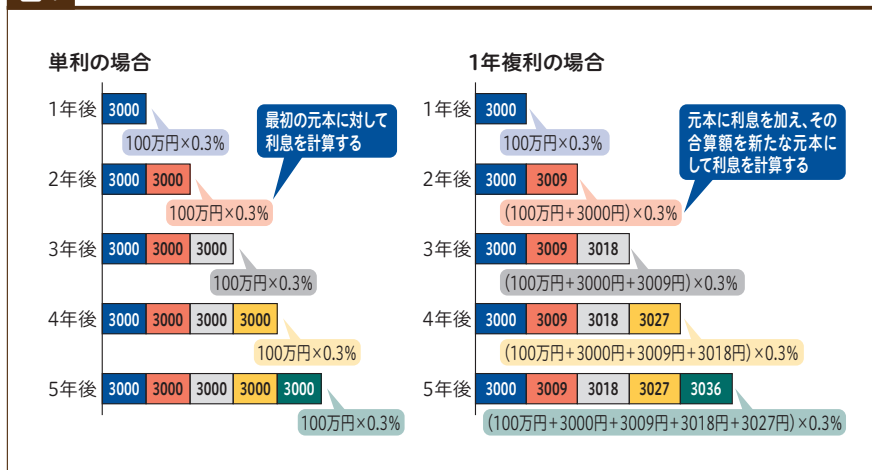
また投資においても、配当(債券なら利息)などが出たら、そのまま再投資していくことで複利効果が期待できます。ただ定期預金のように毎年同じ利率というわけにはいかないことが多いため、留意が必要です。

例えば、年利5%・1年複利で100万円を3年間運用した場合、運用利回りは

約15.8%です。単利では15%ですから、複利効果は約0.8%になります。ところが1年目は20%、2年目は10%で運用できたものの、3年目にマイナス15%になってしまった場合、利回りは12.2%になり、単利のリターン15%を2.8%下回る結果になってしまいます(図3)。

このようにリターンの変動が激しい場合には、複利効果がマイナスになるケースもあるということも理解しておきましょう。

図1 100万円を年利0.3%で預けた場合の利息の計算のしくみ



※実際の計算では、定期預金などの利息は、一律20% (国税15%、地方税5%)と、復興特別所得税(2013年1月1日～37年12月31日に受け取る利息)の合計20.315%の税金が引かれます。  
※計算の詳細、端数処理は金融機関によって異なる場合があります。

図2 「表面利回り」と「実質利回り」

$$\text{表面利回り}(\%) = \frac{\text{収益}}{\text{投資元本}} \div \text{運用年数} \times 100$$

$$\text{実質利回り}(\%) = \frac{\text{収益} - \text{費用}}{\text{投資元本}} \div \text{運用年数} \times 100$$

図3 運用利回りの変動例

